

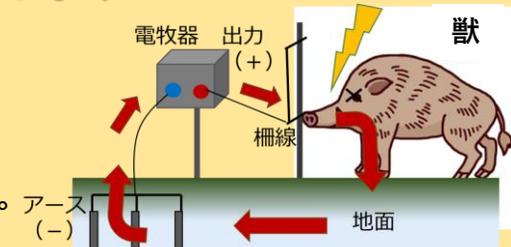
獣害用電気柵の適切な設置と管理

～押さえるべき5つのポイント～

群馬県鳥獣被害対策支援センター
令和5年8月

1. 電気柵の仕組みを理解しましょう

- 電気柵は、獣が感電による痛みを学習し、近づかなくなることを利用した「心理柵」です。
- 電気柵は、獣と電気柵の間に回路が形成されて初めて効果を発揮します。
- 電線に触れた際、電流がしっかりと流れる環境の確保が重要です。
- アースの確保にも留意しましょう。



詳細をスマホ
でチェック

2. 獣種に合わせた張り方を知りましょう

- 電気柵の効果的な張り方は獣種毎に異なるので適切な張り方を取ります。
イノシシ→2～3段、シカ→5段以上、ハクビシン→3段
- 柵線の最下段の高さ（高くても地上から20cmまで、ハクビシンは最下段5cm以内）にも留意しましょう。



詳細をスマホ
でチェック

3. 作付期間中はずっと設置 & 24時間通電しましょう

- 電気柵は獣の学習能力を利用しており、獣が「電気柵は怖くない」と認識してしまうと侵入防止効果は望めません。
- 電気柵は作物の作付開始～収穫完了まで設置しましょう。
- 設置期間中は24時間通電しましょう。



詳細をスマホ
でチェック

4. 設置が対策のスタートです

- 電気柵は設置後も漏電や経年劣化、獣の接触による損傷なども多いため、日頃のメンテナンスが重要になります。
- 除草作業や柵線の点検、電圧の計測をこまめに行いましょう。
- 電圧は最低でも4,000V確保しましょう。



詳細をスマホ
でチェック

5. 安全に留意した使用を徹底しましょう

- 電気柵を設置する際は、注意表示板の掲示や漏電遮断器の設置（家庭用電源の場合）を徹底しましょう。



詳細をスマホ
でチェック

電気柵は張れば被害がゼロになる訳ではありません。
「設置してからが対策のスタート」と心がけ対策しましょう。

獣害用電気柵の適正管理チェックシート
～電気柵は正しい設置と管理が重要です～

できたら☑	チェック項目
<input type="checkbox"/>	柵線は獣種に応じた段数（イノシシ：2～3段、シカ：5段、ハクビシン：3段）にしている
<input type="checkbox"/>	潜り込み防止のため、柵線（最下段）の高さは地際から20cm以内になっている（ハクビシン等は5cm以内）
<input type="checkbox"/>	柵線がガイシ以外の物体（雑草、支柱など）に触れないようにしている
<input type="checkbox"/>	電気柵はコンクリート等の舗装面から離して（概ね50cm）設置している
<input type="checkbox"/>	防草シートを使用する場合、通電性のシートを使用している
<input type="checkbox"/>	ガイシをほ場の外側に向けている
<input type="checkbox"/>	電牧器の本体は電気柵の内側に設置している
<input type="checkbox"/>	電圧は全段で4,000V以上確保している
<input type="checkbox"/>	柵線の長さに応じた電牧器を使用している
<input type="checkbox"/>	バッテリーは4～5年を目安に点検・交換している
<input type="checkbox"/>	24時間通電にしている
<input type="checkbox"/>	アースは最後まで地面にしっかりと打ち込んでいる
<input type="checkbox"/>	アースは極端に乾燥していない地面に打ち込んでいる
<input type="checkbox"/>	電気柵の周辺は遮蔽物がない空間（緩衝帯）を確保している
<input type="checkbox"/>	獣が作物に触れられないよう、電気柵は作物から離して設置している
<input type="checkbox"/>	電気柵の注意表示板を掲示している
<input type="checkbox"/>	（家庭用電源の場合）漏電遮断器を設置している
<input type="checkbox"/>	作物を栽培しない期間は柵線を撤去している

一つひとつ確認してより効果的な対策につなげましょう！

問い合わせ先：群馬県鳥獣被害対策支援センター
TEL：027-371-0003